CASBEE静岡 ふじっぴー

CASBEE建築（新築）2021年版 対応

欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	（仮称）molex静岡Development Center	BEE	0.7	BEEランク	B−	★★

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点		取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進（Global Warming）	2.5	/5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成（Disaster）	2.9	/5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進（Universal Design）	2.5	/5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復（Nature）	1.8	/5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）

評価　凡例　よい 4 点以上　ふつう 3 点以上　がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号（①～）を示し記述してください。

"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進（Global Warming）

■室内環境対策　（①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数）
①屋根を二重折版としました。
②居室の窓にブラインドを設置しました。

■室外環境（敷地内）対策　（⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上）
⑥約6%となる様な敷地内緑化計画を行ないました。

■エネルギー対策　（⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用）
⑦屋根を二重折版、外壁をALC100㎜としました。

■資源・マテリアル対策　（⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避）
⑬接着剤、シーリング材を対象物質含有対象外品を採用しました。

■敷地外環境対策　（⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善）

					内訳対応項目	得点
						2.5
Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
		3.2	3.2.1	③	昼光制御	
Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
	3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
	2			⑧	自然エネルギー利用	
	3			⑨	設備システムの高効率化	
	4	4.1		⑩	モニタリング	
		4.2		⑩	運用管理体制	
LR-2	1	1.1		⑪	節水	
		1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
			1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
	2	2.1		⑫	材料使用量の削減	
		2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用	
		2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
		2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
		2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
		2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
	3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
		3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
			3.2.2	⑬	断熱材	
			3.2.3	⑬	冷媒	
LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	

"災害に強いしずおか"の形成（Disaster）

■サービス性能対策　（⑯耐震・免震/⑰信頼性）

					内訳対応項目	得点
						2.9
Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
			2.1.2	⑯	免震・制振性能	
		2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
			2.4.3	⑰	電気設備	
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
			2.4.5	⑰	通信・情報設備	

"しずおかユニバーサルデザイン"の推進（Universal Design）

■サービス性能対策　（⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり）
⑱バリアフリー機能につきまして条例による整備基準相当の計画としました。

■室外環境（敷地内）対策　（㉑地域性・アメニティへの配慮）
㉑建物をセットバックし、隣地までの距離を十分にとる事で近隣住民へ影響が少なくなるようにしました。

					内訳対応項目	得点
						2.5
Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3	3.1	3.1.1	⑳	階高のゆとり	
			3.1.2	⑳	空間の形状・自由さ	
Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上	

"緑化及び自然景観"の保全・回復（Nature）

■室外環境（敷地内）対策　（⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上）
㉒周辺環境への影響が少なくなるよう、建物高さ・建物位置を考慮すると共に・芝生、中木等の植栽の設置等を行ないました。

■敷地外環境対策　（⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善）
⑮外構の駐車場部分に緑化ブロックを採用しています。

					内訳対応項目	得点
						1.8
Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
	2			㉒	まちなみ景観への配慮	
	3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	

CASBEE®-建築（新築）　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版　■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要

建物名称	（仮称）molex静岡Development Cent	階数	地上3F
建設地	静岡県榛原郡吉田町住吉字京田13	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	180 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,000 時間/年（想定値）
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月　予定	評価の実施日	2026年7月27日
敷地面積	19,422 ㎡	作成者	青島利浩
建築面積	1,546 ㎡	確認日	
延床面積	3,768 ㎡	確認者	

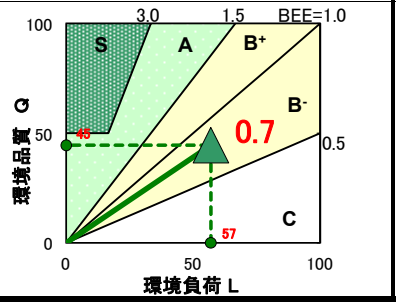
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

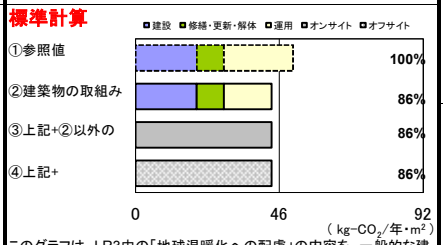
0.7

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



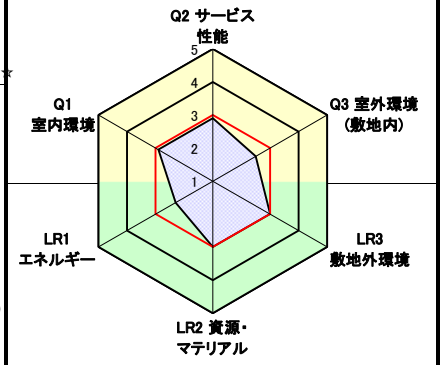
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

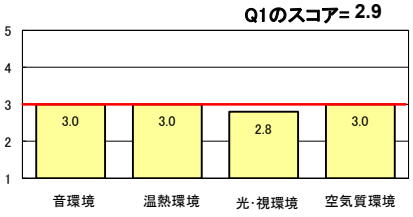
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



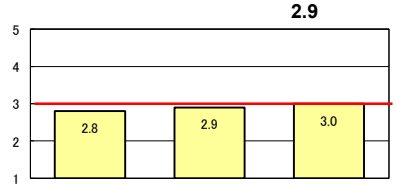
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.7

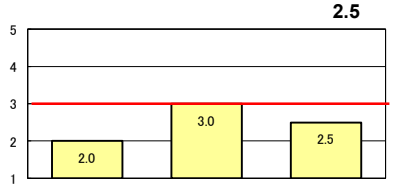
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.9



Q2 サービス性能　2.9

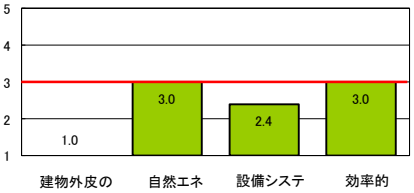


Q3 室外環境（敷地内）　2.5

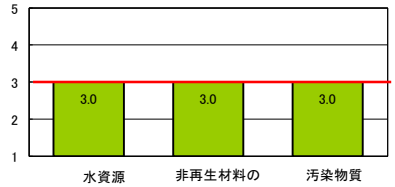


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 2.7

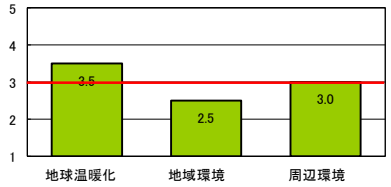
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 2.3



LR2 資源・マテリアル　3.0



LR3 敷地外環境　3.0



3 設計上の配慮事項

総合

これはCASBEE静岡（2021年版）による評価結果です。本建物は倉庫・事務所として使用される建物となり、従業員が快適に執務が行えるよう、建物形状、使用建材、設備機器の選定を行ないました。
周辺環境への影響が少なくなるよう、建物高さ・建物位置を考慮すると共に・芝生、中木等の植栽の設置等を行ないました。

その他

Q1 室内環境

執務スペースは吸音効果の高い材料を採用し、又、自然換気用窓を設置し、快適な作業空間となるよう配慮しました。
使用建材は全て規制対象外又はF☆☆☆☆を採用し、従業員への影響を最小になるようにしました。

Q2 サービス性能

休憩室を広く設置し自動販売機を設置する等、従業員がリフレッシュしやすい空間としました。
設備の更新・改修がしやすいようOAフロアを設置しました。

Q3 室外環境（敷地内）

建物の隣地までの距離を十分にとる事で近隣住民へ影響が少なくなるようにしました。

LR1 エネルギー

外壁、屋根を高断熱性能品を採用し、設備機器も省エネルギー型とする事で地球環境への影響が少なくなるように配慮しました。

LR2 資源・マテリアル

節水型機器を採用する事で水資源の有効活用できるようにしました。
又、将来のリノベーション等に対応しやすいよう、鉄骨造、LGS下地を採用しました

LR3 敷地外環境

CO2排出量が少なくなるよう、設備機器等の選定を行ないました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される